

令和7年度 学校教育自己診断結果について

1. 実施日程

生徒；令和7年12月11日

保護者；令和7年12月11日～19日

教職員；令和7年12月23日

2. 回答状況

	生徒	保護者	教職員
回答数	774	575	44
全体数	830	830	50
回答率	93.3	69.3	88.0

3. 分析（令和7年度学校評価に記載）

1 生徒からの回答について

・全体として、学校生活への満足度は高く、多くの項目で肯定率が80%を超えている。特に、学校行事、進路指導、人権や命の大切さに関する学び、いじめへの対応や安全面については90%以上と非常に高く、生徒が安心して学校生活を送れていることがうかがえる。

・一方で、学習面では課題も見られる。授業中の集中度は高いものの、「授業についていけている」や「家庭学習に積極的に取り組んでいる」の肯定率は低下しており、特に家庭学習は全体で最も低い水準となっている。授業理解の定着や、主体的な学習習慣の形成が今後の課題である。

・また、地域や近隣校との交流についての肯定率は低いものの、前年比では大きく向上しており、取り組みの成果が表れ始めている。総じて、学校への信頼や安心感の高い一方、学習習慣の充実と外部との関わりをさらに深めることが、今後の改善点として挙げられる。

2 保護者からの回答について

・全体として、保護者から見た学校評価は中程度で、肯定率は60～70%台の項目が多く、一定の理解と支持は得られているものの、強みと課題がはっきり分かれる結果となっている。

・肯定率が高い項目としては、学校行事(92.7%)や部活動(76.7%)、生徒が生き生きとしている(79.4%)などが挙げられ、生徒の主体的活動や学校全体の雰囲気については概ね好意的に受け止められている。また、「授業がわかりやすく楽しい」「授業参観」「施設・設備」など学習環境に関する項目は前年比で改善が見られ、学校の取組が徐々に評価されつつある。また、WEBサイトが役立っているとの回答も初めて70%台を超え、WEBサイトのリニューアルが大きく寄与していると判断する。

・一方で、生活指導や進路指導における家庭との連携、学習評価の在り方、授業中の落ち着きなどは肯定率が50%前後にとどまっており、保護者の十分な納得には至っていない。また生徒会活動や清掃活動、施設設備関

係については低水準かつ前年から低下しており、改善が求められる分野である。

・総じて、学校の雰囲気や生徒の主体性といった面では一定の評価を得ている一方、保護者との情報共有や相談のしやすさ、教育活動の見える化をさらに進めることが、信頼向上と満足度改善につながると考えられる。

3 教職員からの回答について

・今年度は回答率が88%と高く、昨年度の55%と比べて母数が大幅に増加している。そのため、数値はより多くの教職員の実感を反映したものとなっており、データの信頼性・精度は昨年度より高まっているといえる。この点を踏まえると、本結果は学校の現状をよりの確に示すものとして評価できる。

・教職員間の話合いや学校運営、生徒指導体制に関する項目は総じて肯定率が高く、多くが90%前後またはそれ以上となっている。いじめ対応、問題行動への組織的対応、家庭や関係機関との連携、進路指導、学級経営などでは高い評価と増加が見られ、学校としての組織力や連携体制が着実に強化されていることがうかがえる。

・一方で、教科横断的な連携に関する項目は肯定率が低く、前年差も大きく下がっており、カリキュラム・マネジメントの面で課題が明確になっている。また、ICT活用や学習指導要領の趣旨の反映、基礎・基本の整理など、学習指導に関わる一部項目では肯定率の低下が見られ、授業改善を継続的に進めていく必要がある。

・さらに、ボランティア活動や体験活動、人権教育の一部は肯定率こそ相対的に低いものの、増加幅は大きく、取組が広がり始めている段階と考えられる。総じて、回答率向上により精度が高まったデータからは、学校運営と生徒指導の安定・充実が明確に示される一方、教科間連携と学習指導の質的向上が今後の重点課題として浮かび上がっている。